

岩岩岩の栗沢山とアサヨ峰（個人山行）

（報告）TM

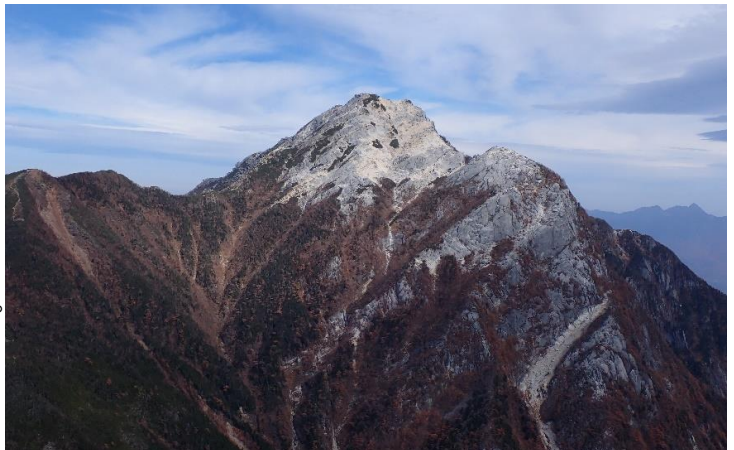
◎期日：2023年11月4日（土）

◎メンバー：TM（単独）

久しぶりに北沢峠から南アルプスに行きたいなあ、と10月から狙っていたが、なかなか週末の天気安定せず、ようやく11月最初の三連休でタイミングをつかめた。仙丈ヶ岳を考えていたが、3000m越えはちょっと息が苦しいので、もっと体力の見極めがしっかりしているときに回すことにして、少し低めのアサヨ峰（2799m）に決めた。アサヨ峰は、8年前の山行で、FTさん、KMさん、MHさん、FJさんと一緒に訪れた大変眺めの美しい山で、いつかまた行きたいと思っていた。

前日に山梨入りして、仮眠。翌朝は2時起き、伊那の仙流荘駐車場へ着くころに、山の端が少し明るくなってきた。冬山装備なしで登れる最後の三連休、北沢峠行き6時始発のマイクロバスは、補助席まで使って2台出た。しばらく来なかった間に駐車場は有料に、仙流荘日帰り入浴はできなくなり、バスのチケットは、真新しい券売機でスマートにクレジットカード購入可と、今ふうに変化していた。

北沢峠で朝食代わりにおにぎりを食べて出発。まずは栗沢山直登。この道は初めてだ。登るにつれ、だんだん急坂となる。もう少しで森林限界というあたりから、冷たい風が強くなってきた。そこを超えると、いよいよ岩稜帯が現れた。防風のため雨具を上下装着。岩に生えるコケたちのかわいさに慰められつつ、息を切らして急登を行う。抜きつ抜かれつ他の登山者とすれ違うたびに「きついですねえ」と苦笑い。最後の最後まで岩が続いて、約2時間半で栗沢山山頂（2714m）に到着した。しばし写真撮影などして、ひと休み。



栗沢山から、甲斐駒ヶ岳



栗沢山の岩稜帯



栗沢山から、仙丈ヶ岳

見ていると、アサヨ峰方面の早川尾根に行く人はほとんどいないようだ。人が少ないのは想定済みだが、なんとなく寂しく、気合を入れ直して歩き出した。8年前は、ハイマツ交じりの岩稜帯に踏み跡もあまりなく、ハイマツの幹を踏みつけてバランスを崩しかけ、ふらふらしながら歩いたのをよく覚えている。だが、数年前にこの道も整備され、今回、道を見つけるのは容易だった。しかし、こんなに岩だらけだったっけ？しかも、両手両足を使って登ったり下ったり、こんなにきつかったっけ？！ゴールが遠くて、くじけそう。

きっちり1時間で、アサヨ峰到着。前回「こんなきれいな風景、見たことない」と感激した、野呂川沿いの風景を眺めながら昼食をとる。手前から延びる川の水面が白く輝き、霞んだ空気の向こうにうっすらと富士山。左右の谷の斜面はカラマツのオレンジ色が浮き上がるよう。谷の右斜面をぐっと上った尾根をたどれば北岳、間ノ岳。頂上付近は雪が載っている。その右に塩見岳と南アルプス南部の山々。景色を遮るように手前に大きく仙丈ヶ岳。山頂部のカールがくっきり見える。さらに右に目を移すと伊那谷、中央アルプス、北アルプス、再び手前に鋸岳、どーんと甲斐駒ヶ岳、その右の遠くにハヶ岳と山梨側の平地があって、鳳凰三山、富士山でぐるり一周。お見事。



アサヨ峰から仙丈ヶ岳

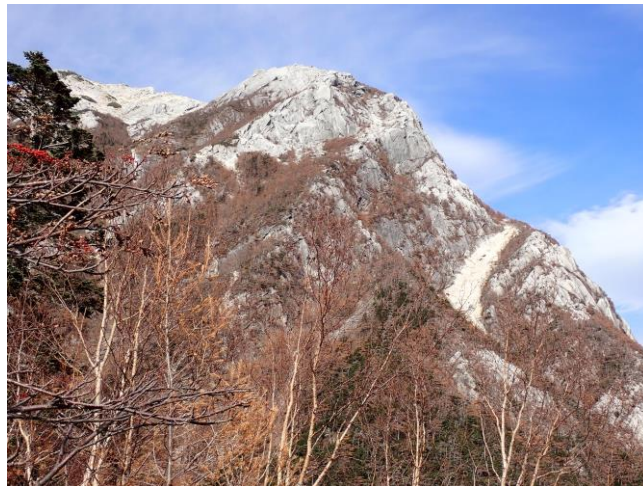


アサヨ峰から野呂川、富士山、北岳

前回通った広河原峠からの下り道は、カラマツのオレンジに挟まれた左斜面のあの辺りだろうか。ゆで卵の殻を剥き、暖かい紅茶を飲みながら、早くも次はいつ来られるかなあと思う。

心残りのないよう、また写真を撮って栗沢山へ戻る。後半は疲れと息切れて、岩の登り降りも休み休みとなった。再びきっちり1時間で栗沢山。疲れたー！足が前に出ない。誰もいないのを幸い、荷物を放り出して、平らな大きな岩に大の字に寝転がった。体を休ませつつ、誰かの足音が聞こえたらすぐ起きよう、と耳に神経を集中させる。大丈夫だ。たぶん誰にも見られていない。この休憩のおかげで、疲れもいくらか回復した。

さて、来た道をまっすぐ北沢峠に戻るか、仙水峠へ回るか、しばし思案。実はこの山行にはアサヨ峰の風景のほかにもう一つ目的があったので、地図では30分程度遠回りとなる仙水峠に下りることにした。前回は仙水峠から栗沢山に登ったが、今回は逆ルート。この道も傾斜がきつくて、こんな道を登ったんだっけ?と信じられない思いがした。人間、つらい記憶は残らないものだ。だから山登りを続けられるのかも。



甲斐駒ヶ岳の摩利支天

再び森の中に入り、間もなく峠に着いた。甲斐駒ヶ岳の摩利支天を見上げ、ホッと一息。ザックから取り出した野菜ジュースが美味しい。甲斐駒斜面の黒いゴロゴロ石を我慢しながら通過すると、仙水小屋に着いた。ここの天然水が、もう一つの目的であった。ボーリングして引き込んでいるこの小屋の水は、これまでに飲んだ山の水の中でトップクラスの美味しさで、ここを通ったらお水をもらって帰ろうと、ちゃんと余分のプラティパスを持ってきていたのだ。ちょうど外に出てきた女性スタッフに声をかけ、ありがたく約3Lの冷たい極上天然水をいただいた。

ずっしり重くなったザックを背負って、あと少しだ、と自分を励ましながら下山を続ける。あと少し、と思うと長いもの。長衛小屋からは緩い上り坂になる。一步一步ぐっと我慢しながら、予定通りの時刻に北沢峠に到着。すぐにバスが出発、さくさくと仙流荘駐車場に着き、だらだらと自分のクルマに向かう。

駐車場で密かな楽しみは、ナンバープレート観察だ。日本アルプスは、全国と言わないまでも、かなり広い範囲から登山者が集まっている。長野県の駐車場で仙台ナンバーの隣に大阪ナンバーなんて組み合わせがたまらない。私の隣は広島ナンバーで、これから広島に帰ると聞いて、こりゃえらいこっちゃ!とのけぞりそうになった。ご本人はいたって楽しそう、そんなもんだと慣れた感じだったけれど。

ゆっくり身支度して伊那市内の温泉に行くと、こちら首都圏ナンバーばかりで満車御礼。地元の皆さま、すみません。中央道では諏訪SAで夕食をとり、諏訪湖の夜景を眺めながら、ご褒美ソフトクリームで改めて一息。やっと一日が終わる。長かったけれど、やりきった充実感で心は満たされている。

翌週は急に寒くなり、天気も良くなかったので雪が降っただろう。まさにぎりぎりの、秋のアルプス登山となった。

《コースタイム》

北沢峠 (7:15) ~ 栗沢山 (9:50-10:00) ~ アサヨ峰 (11:00-11:30) ~ 栗沢山 (12:30-12:45) ~ 仙水峠 (13:30) ~ 北沢峠 (14:45)

(終)



オニハナゴケ



コアカミゴケ



コアカミゴケとケギボウシゴケ